

4月29日

おとめシエナのカタリナ Catherine of Siena

(1347-80)

～おとめ教会博士～

カタリナは、裕福な染物師、ジャコモ・ベニンカーサとその妻ピ
アジェンティの23人の子どもの末っ子として生まれました。
幼い頃から活発で信心深かったカタリナは、染物屋街の向かいにあ
った聖ドミニコ会修道院の修道女たちの生活にあこがれるようにな
り、彼女たちの苦行生活を真似ていたそうです。またカタリナは、
幻をよく見ていました。1367年、彼女は幻視体験を通して「キリ
ストの花嫁」となります。それ以来、外へ出て、貧しい人々、囚人、
ハンセン病患者たち、伝染病患者たちを熱心に訪ね、彼らに仕える
ようになりました。また、独学で読み書きを習得し、聖書、教父文
書を勉強して賢人となり、大勢の人は彼女に相談に来たといいます。

ある日キリストが、片手にいばらの冠を、もう一方の手に黄金の
冠を携えて現れ、カタリナに「どちらを選ぶか」と問いました。す
ると、彼女はすぐ「いばらの冠をいただきます」と答え、キリスト
にならってすべての困難を引き受ける覚悟を決めます。1375年、
カタリナはキリストの五つの傷を、彼女の体に受けます。それらの
傷は目に見えませんでした。痛みはひどく、死ぬまで治りません
でした。



St. Catherine of Siena

by カルロ・ドルチ

(c. 1665 - 70)

ダルウィッチ ピクチャーギャラリー

ロンドン

そのときキリストは、カタリナに語りかけられます。「わたしは、
あなたに知識と雄弁の恵みを与える。各国を旅行して、国の権力者
や指導者にわたしの望みを伝えるように」。そこから彼女は、多く
の権力者に書簡を送り、教会と国家間の問題について助言を与える
ようになりました。アヴィニオンに亡命していた教皇グレゴリオ11
世には、ローマに帰るようにと書き、教会の一致の回復を促したと
言われています。

彼女の残した情熱溢れる『対話』は、霊的作品の古典となってい
ます。カタリナは、長い闘病生活の後、33歳で天に召されました。
現在、イタリア、シエナ市の中心には、緑と白の縞模様の大石で
造られたカタリナ大聖堂が建ち、そこには彼女の頭部が安置されて
います。

<特禱>

**全能の神よ、あなたは聖徒たちの愛と献身を通して教会を築き上げ
られました。わたしたちはみ前に記念する主のしもべ、おとめシエ
ナのカタリナのために感謝いたします。どうかその模範に従うわた
したちを聖霊によって強め、今もこの世にあって聖徒たちとともに
あなたの栄光を見て楽しむことができますように、み子イエス・キ
リストによってお願いいたします。**

アーメン